

スタートは小さな町工場、今では世界規模の事業に

株式会社 ファーストカスタム(秋田県横手市)

たまたま目にした洋書でアメリカのカスタムカー事情を知り、すぐにアメリカに飛んだ。その行動力で、今では世界的にも一目おかれるカスタムカービルダーに。「諦めない限り、それは失敗ではない」という口癖のとおり、大きな挑戦もいとわない果敢な経営者像がそこにある。

広いフロアも手狭に感じられるほどに活況を呈した工場風景

横手市八幡の卸団地の一角、以前はホームセンターだったという平屋の大きな建物がある。従業員の車が多数停まっているが、外見からは何をつくっている会社なのか判然としない。

その屋内には、架装途中の新車の高級車が何台も並び、さまざまな作業につく従業員、山積みされた部品、製造途中のハーネスと呼ばれる電線を束ねた部品…、ホームセンターだった建屋だけに十分に広いフロアなのだが、作業スペースはそれでも手狭なほどだ。

ここが株式会社ファーストカスタムの長者町(本社)工場。

「少し前まで従業員は60人弱でしたが、急に仕事が忙しくなってきたので今は120人。あと30人くらいは欲しいと思っています」(代表取締役 佐藤和秋さん 53歳)

キャンピングカーや既成車両を改装するカスタムカーの製造では国内でもトップクラスの歴史と実績を誇る同社は、今、海外からもデザインや製造技術を含めた総合力で高く評価されて、名指しで大きな仕事が舞い込むようになった。

目下のところ、中国にVIP向けカスタムカーを年間一千台納入する契約があり、そのために全社が大わらわになっているのである。

ある有名ミュージシャンからのオーダーがビッグビジネスの転機に

佐藤社長は横手市平鹿町の生まれ。地元で自動車修理工場を開業したが、狭い地域での商売が鳴かず飛ばずの状態で悩んでいたところ、たまたま洋書でアメリカのカスタムカー事情を知り、ひらめくものがあって早速アメリカに飛んで実物に触れた。その結果で、日本のキャンピングカーやカスタムカーづくりの先駆者の一人となったのだ。

同社の技術力の高さを証明する面白いエピソードがある。2003年11月にミュージシャンのK氏が結婚するとき、結婚式の演出の一つとしてトヨタのミニバンをVIP仕様に改造した車両を登場させるアイデアが持ち上がった。その話はK氏側からトヨタ本社を経由してファースト社に持ち込まれ、佐藤社長は納期的に無理だと一旦は断ったものの、懇願されて引



- A. デザインや構造設計も自社で手がける。若い技術者やデザイナーの姿が目につく。
- B. ベース車は内装やシートがまったくない状態で入庫してくる。
- C. 手作業による工程が多いのでモノづくりの好きな若者向けの職場だと社長は言う。
- D. VIP用シートやハーネスも既製品ではなく、すべて内製である。
- E. 従業員の平均年齢は約31歳。一人一人が持ち場を任されている。
- F. 世界中で開かれるモーターショーなど、必要があればどこにでも飛ぶ行動力が身上的佐藤社長。



き受けることにした。結果的にはそれが大好評になって、トヨタでもこのモデルを定番商品化することになり、今でもトヨタのカタログに載っている同社の最高級モデルは、ファースト社が内装を全面的に手がけている。

そのクルマをモーターショーで見たアメリカ国籍の台湾人実業家が、中国市場向けに1,000台のVIP向けカスタムカーをオーダーしてきたのだ。

「当初の計画では、中国に組み立て工場を建て、日本でつくった部品を送り込む予定になっていました。ところが諸事情で工場建設ができなくなり、急きょ横手の本社工場で組み込みまですることになったのです。秋には台湾に工場をつくるので組み込み工程はそちらにシフトする予定です。そのように分散化しないと、部品の増産も間に合いません」(佐藤社長)

潜在的な需要の見込める新興国にフォーカス。国際標準を目指すモノづくり

佐藤社長は、今回の中国からのオーダーで新興国の市場の大きさに気づいたという。中国への納入が一段落したら、ベトナム、インド、ロシア、UAEというように、次の展開も視野に入れている。

中国向けのカスタムカーのベース車はアメリカ製である。カスタムカーづくりではアメリカのほうが本場のはずだが、佐藤社長に言わせると向こうの感覚は20年前のままで、そのために商品力を失い、ファーストカスタムに出番が回ってきたのだ。ベース車はアメリカから秋田港に陸揚げされ、ファースト社で架装されて再び中国に向けて秋田港から出荷されていく。

佐藤社長が経営理念として掲げる「あったらいいな！ もっと楽しい、もっと便利な」の精神が、いつの間にか同社を世界的なカスタムカービルダーに成長させていた。

夢はカスタムカーづくりの国際標準をみずからの手で作り上げること。それは何年も先のことになる。社長自身は謙遜するが、それは既に横手の地から生まれつつあるのではないだろうか。

仕事のスケールがこの1、2年で爆発的にふくれあがったために、それに合わせられている部分と合わせられていない部分で社内にひずみが生じている。そのバランスを調整するのが目下の課題の一つである。

株式会社 ファーストカスタム

〒013-0071
横手市八幡字長者町25番地1
Tel.0182-36-3307
Fax.0182-36-4477
<http://www.firstrv.co.jp/>



架装待ちの新車が一列に並ぶ。

